

# TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)  
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 2/16 ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

## 若おかみは小学生!

高坂希太郎 監督作品

© 令丈ヒロ子・亜沙美・講談社 / 若おかみは小学生! 製作委員会



(2018年 / 94分 / 日本 / アニメーション映画 配給:ギャガ)

### 応援トーク 香川愛生氏(女流棋士)

1993年生まれ。東京都調布市出身。2008年に弱冠15歳で女流棋士としてプロデビューを果たす。2012年から立命館大学へ進学、将棋と学業の両立をさせながら2013年に初めてのタイトル挑戦で初戴冠。翌年も防衛し連覇。女流棋士トップクラスの実力を持ちながらも、将棋普及のためにテレビやイベントなどにも精力的に出演している。

### ゲストトーク (第2回上映後)

高坂希太郎さん(劇場版監督)、齋藤雅弘さん(プロデューサー)、豊田智紀さん(プロデューサー)、増原光幸さん(テレビアニメ版監督)によるトーク

### 上映スケジュール

- ★ 10:15 ~ 応援トーク
- ① 11:00 ~ 12:34 作品上映
- ② 14:00 ~ 15:34 作品上映
- ★ 15:34 ~ ゲストトーク
- ③ 16:30 ~ 18:04 作品上映

- \* 全席自由・各回入替制。開場は15分前です。
- \* 上映時間は変更になる場合があります。
- \* トークはチケット(半券含む)提示で入場できます。

### チケット料金

前売・インターネット予約: 1,000円

当日: 1,500円(一般)

1,000円(中高生および60歳以上)

800円(子ども4歳~小学生)

TAMA映画フォーラム支援会員、

障がい者とその付添者1名は当日800円です

### 高坂希太郎 監督

1962年生まれ。神奈川県出身。高校卒業後、オープロダクションへ入社。1986年からフリー。スタジオジブリの作品に作画監督や原画として参加。2003年に『茄子 アンダルシアの夏』(黒田硫黄原作)で映画監督としてデビュー。

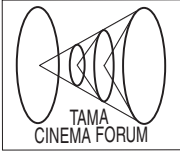
### 企画者からのメッセージ

「誰かを受け入れるってこういうことか」――初めて『若おかみは小学生!』を観たとき、そんなことを感じました。

主人公のおっちゃんは大切な人との突然の別れという悲しい出来事を経験します。引き取られた祖母の営む旅館「春の屋」で、若おかみとしてさまざまな問題を抱えたお客様と出会い、それを自分のことのように受け止めながらおもてなしをしていきます。

つらいことに出会ったとき、人の心はまずそんな現実を受け入れないために「こんなことが起こるはずがない。これはきっと夢なんだ」と自分に都合の良い「物語」を作り上げ、それを信じ込むことでとりあえず安心しようとするそうです。作中のおっちゃんの心の動きも正にその通りでしたが、ここで春の屋という場所が大きな影響を与えます。「花の湯温泉のお湯は誰も拒まない」という言葉を、おっちゃんがどう受け止めて行動していくか、そして人を受け入れるとはどういうことかを、映画を通じて感じていただけたら幸いです。(永井理)

<http://www.tamaeiga.org/special/waka-okami/>



## 第28回映画祭 TAMA CINEMA FORUM レポート

2018年11月17日(土)～25日(日)

(ホームページにて詳細レポートを掲載予定です)

©2018 TAMA CINEMA FORUM

### 第10回 TAMA 映画賞 ● 11.17(土) パルテノン多摩大ホール

2作品の上映が終わり、授賞式が始まる頃には立ち見の方の姿も見えるなか、最優秀新進女優賞・最優秀新進男優賞から授賞式がスタート。深川麻衣さん、伊藤沙莉さん、吉村界人さん、吉沢亮さんが、喜びとこれまでの苦労と周囲の方に対するお礼を、笑いを交えて前向きに語ってくださり、客席から温かい拍手を受けていました。



最優秀新進監督賞では、三宅唱監督が函館の小さな映画館の企画が多摩の映画祭と結び着けたことを、今泉力也監督がTAMA NEW WAVEでも第10回にグランプリを受賞し、今回の受賞で多摩との縁を感じることを語ってくださりました。最優秀女優賞では、安藤サクラさんが『万引き家族』の信代役についてビデオメッセージを下された後、松岡茉優さんが「安藤サクラさんの演技を見て追いつきたい、追い越したいと思ったことが一番の進歩だと思っています」と心境を語ってくださりました。

最優秀男優賞では、松坂桃李さんが「僕も演技をはじめた10周年なのでご縁があるなと思いました。支えてくれたスタッフへの恩を1本1本の作品で返していきたいと思っています」と感謝の念を述べられていました。特別賞では、『モリのいる場所』で受賞された沖田修一監督と山崎努さんが登壇され、山崎さんが「ここに樹木希林が居ればもっとよかったが……。」とおっしゃられたのが印象に残りました。

最優秀作品賞『万引き家族』の是枝裕和監督は、カトリーヌ・ドヌーブ主演映画をフランスで撮影中とのことで、ジャック・ドゥミ監督のお墓の前で撮影したビデオメッセージをくださりました。2時間を超える授賞式でしたが、ご登壇者の誠意とお客様の醸し出す温かい会場の雰囲気でのいいセレモニーになりました。

### 第19回 TAMA NEW WAVE コンペティション ● 11.25(土) ヴィータホール

日本映画界に新風を送り込む新しい才能の発見を目的として、2000年よりスタートした若手作家のコンペティション TAMA NEW WAVE。30分から100分の中・長編作品を対象としている本コンペティションですが、今年は全国から過去最多となる173作品の応募がありました。コンペティションプログラムでは、実行委員による一次審査、二次審査を通過したノミネート5作品が上映され、各賞を競いました。



プロの視点から選出される特別賞は、ゲストコメンター片桐はいりさんと菊地健雄監督によって『チョンティチャ』(福田芽衣監督作品)が選出されました。片桐はいりさんから「塊で来た。言いたいことがドンって来た。」、菊地監督から「今の日本で本当に撮るべき題材だと思った。」と評された『チョンティチャ』の福田芽衣監督は、「お客さんに観ていただくことが映画の存在意義だと思っている。今回賞をいただくことで、自分がこの映画を撮ったんだという実感が湧いています。」と受賞の喜びを語りました。

そして、実行委員票とコンペティション当日の一般審査員票で決定するグランプリには、『カルチェ』(植木咲楽監督作品)が選ばれました。受賞された植木咲楽監督は大学の卒業制作として作られた本作の制作過程を振り返り「壇上にいる俳優と、たくさんのスタッフや仲間、たくさんの後輩たち、それぞれの家族の支えがあって撮ることができました。今すぐ色んな人に報告したいです。」と、感謝の言葉で本年度のTAMA NEW WAVE コンペティションを締めくくってくださりました。

## **[C-9] 台湾映画 青春映画の系譜 ● 11.23 (祝・金) ベルブホール**

『あの頃、君を追いかけた』『藍色夏恋』

日本の映画ファンの間でも徐々に浸透してきた台湾発の青春映画を特集しました。ゲストには、「全国を旅する映画館」キノ・イグルーの有坂壘氏をお呼びしました。台湾の青春映画『あの頃、君を追いかけた』『藍色夏恋』の魅力、野外上映という祝祭的な空間が生み出す、映画を通じたコミュニケーションの素晴らしさについて語って頂きました。



## **[C-12] 遊戯シリーズ 40 周年 素敵なゲームをありがとう ● 11.24(土) ベルブホール**

『最も危険な遊戯』『殺人遊戯』

ツイッター PR アカウントを使って告知したこともあり、熱狂的なファンが多数集まり、上映後には拍手が沸き起こりました。上映後に行われた村川監督のトークでは様々な制約の中で知恵を使って撮影した話をお伺いし、イベント終了後にはファンの要望に応えサイン会が行われました。長年のファンにとって忘れられない上映会となりました。



## **[D-2] 『カメラを止めるな!』 ● 11.24(土) ヴィータホール**

『カメラを止めるな!』

『カメラを止めるな!』上映後のトークではしゅはまはるみさん、細井学さん、吉田美紀さん、藤村拓矢さん、曾我真臣さん、佐渡未来さんにご登壇いただきました。トークはお客さんとの質疑応答を行いました。撮影の裏話や、授賞式の感想などをお話しいただき、カメ止めチームの仲の良さが伝わってきました。会場は終始温かい雰囲気でした。



## **[D-3] 東京国際サメ映画祭 in TAMA — サメ映画特別上映会 — ● 11.24(土) ヴィータホール**

『シャークネード ラスト・チェーンソー』

空席以外は満席という大盛況のなか、シャークネードシリーズの最新作にしてファイナル作品『シャークネード ラスト・チェーンソー』の上映とトーク「サメらを止めるな!」を行いました。サメ映画クイズ大会では、サメ映画ルーキーさんとの大接戦の末、前回王者のおえんさんの2連覇となりました。やはりクイズ大会は盛り上がりです。



## **[C-13] 団地団、TAMA に参上 2018 ● 11.25(日) ベルブホール**

『下町の太陽』

今年も絶好調の団地団マシガントーク。「下町の太陽」35mm フィルム上映。1部のトークでは、映画の背景となる昭和30年代の日本を、トークバトルを思わせるような鋭い切り口で観客を唸らせ、会場を移しての2部では画像も駆使して、主人公「町子の問い」に現在までも私たちは答えを返していないと結論づけ終了。ビターな知に浸った一日でした。



## **[C-14] 特集“非” 本格派時代劇だよ ● 11.25(日) ベルブホール**

『真夜中の弥次さん喜多さん』『小河ドラマ 織田信長』

2作品の上映後、『小河ドラマ 織田信長』監督の細川徹監督、主演の三宅弘城さんをお迎えしてトークを行いました。撮影時のエピソードや、次回作『小河ドラマ 龍馬がくる』に出演の武田鉄矢さんの話など貴重なお話を沢山聞くことができました。最後にはお客様による写真撮影タイムも設け、大盛り上がりで終了しました。



次回の  
特別上映会

**3/23(土) ベルブホール**

上映作品など詳細はホームページで発表いたします。お楽しみに。

お知らせ  
コーナー

## 《映画祭実行委員募集》

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2019年11月23日～12月1日に開催予定の第29回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています！興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか？

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい……など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

4月21日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。詳細はホームページをご覧ください。

## 支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員] 一口1,000円

郵便振替番号 00160 - 5 - 541123 加入者名 TAMA 映画フォーラム実行委員会

特典①：映画祭チラシ送付

特典②：映画祭パンフレット贈呈

特典③：特別上映会割引(当日チケットを支援会員特別価格に！上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

ご不明な点はお問い合わせ下さい。(※その他特典もご用意する予定です)

## シベ超ニュース — シベ超を知らない子供たち —

『シベリア超特急』(略してシベ超)は長い間、映画におけるある種のジャンルであり、原器のような評価基準であり、いろいろな意味で愛された作品であった。そのためか、シベ超を観たことはなくともその存在を知らない人はほとんどいなかった。が、最近の若手の映画祭実行委員に聞いてみるとシベ超の存在を知らない人が結構いるのであった。驚きである。ぜひ、シベ超を憶えておいて欲しい。ちなみにシベ超にはいろいろなバージョンが存在するが、TAMA 映画祭バージョンというのも実は存在するのである。ということで、今回でシベ超ニュースは最終回です。ありがとうございました。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ [www.tamaeiga.org](http://www.tamaeiga.org)

 @tamaeiga (最新情報をフォロー)  [www.facebook.com/tamaeiga](https://www.facebook.com/tamaeiga) (facebookページに「いいね!」で参加)